ふが、兎に角大した修業でムります。
「ヘエ今日は……御免やす……」
「ハイ、誰ぢやナ」
「難波の甚兵衛さん處から參りました」
「オヽこれは可愛らしい丁稚さんぢやナ」
「イエ大人だすネ」
「何ぢや大人か。これは失禮申しました。まア お掛けなされ」
「掛け度うふても背か屆きまへん」
「と云ふて、佇て居さんしたら辛度いぢやろ」
「ヘエ、此處の下駄に腰掛けさして貰ひます」
「アハヽ、面白い人ぢや。何、甚兵衛さんからのお手紙か、ドレ〳〵拜見いたしませふ。ウム……ハヽヽヽ、これ、お前さんが角力に成り度いと云ひなさるのか」
「ヘエ、どふぞお賴申します。稽古したら身體が大きふなりますか」
「ウム大きふ成るぞ。イヤ嬉しい人ぢや。……オーイ鼬山ア……鼬山ア」
「親方さん、何でおます」

「難波の甚兵衛さんが新弟子を世話して下された。稽吉場へ連れて往て稽古したげませイ」
「何處に居やはりますね」
「そら踏み潰すな。汝れの足元ぢやイ」
「アツ吃驚した。ヤー細い人ぢやナ。お前さんかい」
「お前が鼬山か。屁かましなや」
「何吐かすね。サア尾いて來い」
裏の稽古場へ連れて參りますと、稽古の最中。
「コラ〳〵鼬山ア。稽古場へ子供を連れて來て何ふぢやい。危險い哩。そつちへ連れて行けイ」
「イヤ子供と違ひまんね、難波の甚兵衛さんのお世話で來た新弟子や」
「エー。コレお前さんが角力に成るのかイ」
「左樣や。何分賴むで兄弟子」
「ウハハヽヽ。こりや面白い人ぢや。そんなら稽古をつけて進ぜよう。裸になりなされ……オヽ越中褌ぢやナ。そりや不可ん哩。コウ鼬山ア。汝れの褌貸したげませイ。……サア是れを締めるのぢや。此端をシツカリと押えて、宜いかナ。コレ〳〵附いて廻たら不可んがナ。誰ぞ頭を押えて遣れ。……アヽエー。角力—やんれエ、取りにーイは何處が宜ふて惚—れエたアエー。稽イ古ウやんれ。もどー